

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502614		
法人名	(株)さわやか倶楽部		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	北九州市小倉南区長野東町11番16号		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果確定日	平成23年2月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さわやか倶楽部の理念である「慈愛の心」・「尊厳を守る」・「お客様第一主義」を常に念頭に入れ、入居者様、お一人お一人の笑顔を大切に対応させて頂いています。又、グループホームひかりとしては、「安心して安全に楽しく過ごす」を目標にお一人お一人にとって何が必要なのか、どうすれば喜んで頂けるのかを職員の一人々々が真剣に考え、「私の一番大切な人」として介護させて頂いています。その中で、入居者様の出来る能力を奪う様な事のないよう、出来る限り、ご自身でやっていただく事の大切さ、不安になられた入居者様に、そっと寄り添う介護、を目標に対応させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国展開を図る法人グループとしてのスケールメリットも活用しながら、入居者の方々的心豊かな暮らし方を追及し、また、サポートする職員の育成に向けた様々な取り組みが行われている。別府の温泉施設への宿泊旅行や居酒屋での外食等が企画され、特別な楽しみごととしての外出の機会も多い。また隣接する「さわやか堂風館」との合同イベントの機会も多く、入居者と家族の交流の機会としても活用されており、その様子はホームページ上にて、日々の暮らしごとともに紹介されている。「安心して安全に楽しく過ごす」というホームの目標を掲げ、生きがいを感じることが出来る日々の暮らしの実現に向けて、本人本位の支援が行われている。職員の資格取得や研修実施に向けた法人としての支援体制も充実しており、質の向上やモチベーションの確保につながるシステムが確立されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事に積極的に参加し、地域の一員として認めて頂ける様に、地域の方や地区の役員・公民館への働きかけを行っている。	法人全体の理念として「慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義」を掲げている。方針として、社会貢献や地域との結びつきを大切にしていけることを示しており、ミーティング等を通じて共有し、実践に向けた取り組みが行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方とも気軽に挨拶やふれあいが出来ている、近所の子供さんが遊びに来てくれる事もある。	地域まちづくり推進協議会に加入しており、行事や地域活動に積極的に参加している。近隣住民の方々と共に、町内会のお祭りや運動会、敬老会等への参加を行っている。隣接する同法人の複合施設「さわやか堂風館」との交流の機会もあり、様々なレクリエーションが企画されている。高校生の介護実習を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に見学者や、電話での対応等の際に認知症の方に対するのアドバイスを行い相談に応じている。又地域町作り推進協議会の行事等に積極的に参加している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	重要項目については、口頭及び書面にて説明を行い、ご出席頂いた、ご家族様をはじめとした関係各位の要望、希望を汲み取り、改善するように努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が実施されている。家族や自治会長、民生委員、公民館館長、地域包括支援センターの職員が参加し、行事の報告や相互の情報提供、意見交換が行われており、運営に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂き、交流を深めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加がある。市町村の主催する研修等に参加し、情報を共有している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状として、身体拘束を行っている入居者様に対して、身体拘束の廃止、拘束時間の短縮を目的とした指導を行い、身体拘束ゼロを目標に努力している。	身体拘束に関する方針を事業所内に掲示している。法人として、また事業所としても理解を深める取り組みを行い、認識を共有している。現在、これまでの経緯を踏まえた事例にも慎重に対応しており、拘束解除に向けた取り組みを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本理念である、「慈愛の心」「尊厳を守る」「お客様第一主義」を終始徹底して指導し、その人らしく生活できる様に、常に心掛けている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村が開催する研修会や社内研修会に参加し、ご家族様等にはパンフレットを用いて説明やアドバイスが行えるように、心掛けている。	市町村が開催する研修会や法人内の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解を深めている。資料を整備し、必要時には活用に向けた支援が行えるよう、体制が整備されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて、行っている。特に退去条件や金銭に関わる事等、ご家族様に過去の事例を説明し、十分理解していただいている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員制度を用いて、職員、家族間の馴染みの関係を作りやすくして、いかなる要望も聞き逃さないよう、改善するようにしている。	年2回、家族会が開催されている。家族の参加率も高く、意見や要望が表出しやすいよう、関係作りの機会としても活用している。各担当職員により、それぞれの入居者及び家族との関係性を深めながら、個々のニーズに対応できるよう努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、職員の幅広い意見・要望・提案に対して早急に検討・改善を行っている。	毎月の職員会議において、職員の意見や要望を収集し、検討、反映するよう努めている。また、法人本部へと伝わるシステムも確立されており、職員意見を大切なものとして捉えている事を窺い知ることができる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の就業環境について、各人と話し合い、施設にとっても職員にとってもプラスとなるよう、細かい調整を行っている。又、年3回人事評価を行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	実施している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。新規採用時から現任研修実施に至るまで、法人全体の研修システムが確立されている。年3回の人事評価を行い、モチベーションの確保に向けた取り組みがある。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実施している	認知症ケアや高齢者虐待防止等の勉強会を通じて、法人全体で人権教育に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内トレーナー制度・新人研修等・実務者研修・介護職勉強会等、行っている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂き、交流を深めている。グループホーム協議会にも参加して情報収集及び、ネットワーク作りを行っている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の意向を拝聴しながら、入居者様ご本人様の本人らしさを大切にできる施設作りを目指している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、見学に来て頂き、実際の入居者様の生活を見て頂きながら、生活相談を受ける様に心掛けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の立場に立って尚且つ、必要性の有無を検討しアドバイスを行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごすような関わりを常に考え、生活リハビリ等を実行している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に過ごせる様な関わりを常に考え、生活リハビリ等を実行している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に出来る限り面会に来てくださり、外出・外泊を実施できるようにお願いしている。	家族の面会も多く、外出や外泊の他、レクリエーション等の企画にも、家族の参加を呼び掛けている。日常の暮らしぶりを積極的に報告し、関係性が途切れないように支援支援している。	

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の雰囲気作りを心掛けている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された方への継続的な面会を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、以降を把握し、実行できるように努めている。	初回のアセスメントや計画の見直し時には、本人や家族との面談により、センター方式を利用して、アセスメントしている。日々の要望や意見を、日々の暮らしに反映できるように検討し、計画への反映にも努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りとご本人さまの日常会話の内容をつき合わせて、その方らしい生活が出来るように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員制度を用いて、現状の把握及び、各職員への情報の共有を図っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、モニタリング評価時、ご本人様ご家族様に要望や意見、提案を伺い、介護計画に反映している。尚、医療機関とも連携を図り、往診受診及び受診同行時、医者に意見を伺いよりよいプラン作成を目指している	本人や家族の意向を踏まえ、医療関係者、職員等の意見を参考にしながら介護計画が作成されている。毎月、モニタリング・評価が実施され、現状に即した介護計画となっている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録を把握し疑問点や気付いた点を介護職員と話し合い情報を共有化するようにしている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や外出・お買い物等、要望を出来る限り受け入れて実現するよう対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や福祉センターでの研修に入居者参加型で行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々、健康管理には、十分配慮してかかりつけ医との連携を図っている。	本人、家族の意向によるかかりつけ医への受診にも柔軟に対応している。協力医療機関との連携も含め、適切な医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前に、必要に応じた相談や情報交換を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー等と、必要に応じた話し合いや定期的な訪問を行い、関係構築を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、御本人様にとって最善の方法を御家族様と一緒に考えていくと言う事をお互いに確認しており、医療・看取りを含めた話し合いを御家族様と行なっている。	重度化や終末期の対応のあり方について、入居時に、本人、家族の要望や意向を確認している。状況の変化に応じて、その都度、医療関係者を含めた話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変時の対応の研修会を行っている。又AEDを使用したロールプレイを行い、緊急対応を行う様にしている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との連携を持ち、災害時に誘導等を行って頂ける関係作りを行っている。	年2回、消防署の指導のもと、火災、地震等を想定した避難訓練を、隣接する同法人施設と合同で実施している。地域住民の見学や参加もあり、また管理者は近隣住民でもあるため、速やかな対応を行うことが出来る。毎月、予告無しに緊急連絡網の確認やシステムチェック等を行っている。スプリンクラーが設置されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いかなる処遇であれ、その人らしさを大切にしている。	その人らしさという視点を常に大切に支援となるよう心掛けている。入居者の個人情報やプライバシー・守秘義務について、尊厳と権利を守るように配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活リハビリを通じて、目標を持った生活を送って頂ける様にしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様の意思を尊重し希望に添える様に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族様のご協力を頂き、整髪や洗顔・着替え等、常に人の目を意識して頂ける様に声掛けしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る事はご自身で行っていただき、お好みに合わせた副食等を用意して提供するようにしている。職員と一緒に下ごしらえを行ってもらっている。	献立は、その日の入居者の要望や季節の食材を取り入れ、ユニットごとに調理の工夫を行っている。食事の準備や下ごしらえなどを一緒に行い、個々に応じた力を発揮する場面がある。菜園では、トマトや大根等の野菜の生育や収穫を楽しみながら、食卓を賑わせている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を一日単位で把握出来る様に一覧表を作成し記入している。又排便に関しても同様に記入している。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診と職員による毎食後の口腔ケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に、トイレでの排泄を行なって頂いている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。乳製品や食物繊維、水分摂取等の工夫や配慮を行い、出来るだけ自然な排便となるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを、昼食と夕食には寒天を提供すると共に、水分量の摂取一覧表を作成し、便秘予防をしている。又排便確認一覧表を作成し注意喚起している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	衛生上問題の生じない限り、本人の意思を尊重するようにしている。	週3回の基本的な入浴日の設定はあるが、無理強いとならないよう柔軟に対応している。生姜湯・みかん湯・ホウサン湯等、その日の入浴が楽しみになるよう支援している。別府への一泊温泉旅行へは、毎月2、3名の方が出掛けている	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の意思を尊重し希望に添える様に努めている(就寝・起床誘導は基本的には行わない等)		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携を図り、誤薬のない様に、厳しくチェックすると共に、医療関係申し送りノート・ホワイトボード・メモ等を使用し、薬の変更にも情報の共有が出来るようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご入居者様の能力や嗜好に応じて、外出・散歩・買い物・食事の下ごしらえ等、行っている。		

福岡県 グループホーム ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ご家族様・御本人様からの希望により、大正琴の発表会や、外食、等出掛ける様に支援している。</p>	<p>天候や希望に応じて、散歩や買い物、演芸活動や地域行事への参加が行われている。法人グループとしてのスケールメリットを活かし、月2回の外食会の実施や、別府温泉へ少人数での1泊旅行へ出掛けている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族様の意向を拝聴しながら、入居者様ご本人様の本人らしさを大切にできる様に支援している、毎週希望される入居者様は買い物を行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>定期的に、ご家族様に対して、写真やお手紙を同封して送ったり、電話に関しては、基本的に職員がダイヤルしてご家族やご友人との交流を図っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に、生花を生けており、又、換気を行うと共にフロアでは音楽を流している。</p>	<p>共有部分には季節の花や行事ごとの写真が多く掲示されている。加湿器などで健康管理し、居心地の良い空間作りができています。対面キッチンがあり、季節ごとの飾り付けに配慮がある。法人として組織されている「環境委員」により、毎月のチェック体制が確立されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>基本的にご本人様の希望に沿った支援を行っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に後家族様に提案している。</p>	<p>本人や家族の意向を重視して、思い思いの身近な使い慣れた思い出の物で安心して居心地の良い空間となっている。思い思い写真で飾り、雰囲気作りを工夫している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各入居者様の能力に合わせた生活リハビリを実行している。</p>		